



障害児学校部ニュース②

2025年5月18日(日)

広島県内の障害児学校にお勤めのみなさん、こんにちは。

本日は、広島県高等学校教職員組合障害児学校部の定期総会です。総会に参加された皆様、お休みのところご参加ありがとうございます。部長も2年間の任期の半分が過ぎ、後半の1年間を部員の皆様の力を借りながら頑張っていきたいと思っています。

私は、新採用の1991年から、ほぼ毎年この定期総会に参加しています。以前は、たいてい総会は昼からでした。分会2割動員と言っても、100%分会がほとんどですから、分会員が50人いれば10人の動員。分会のみんなで車に乗り合わせて行き、昼食を食べてから会場に向かっていたことを思い出します。運営委員や議長が当たった時は、あいさつで何を言おうか、朝から緊張したものです（今も緊張するのは変わりませんが）。そして、いろんな学校の同期の人たちや、転勤された先生方との再会など、とてもワクワクする時間でもありました。組合員であることの良さを実感する場でもあったのです。本日の総会が、参加された皆様にとってそのような時間になればと思っています。

さて、みなさんは4月14日に、「安全・安心な学校づくりに向けたメッセージ」を教育長が出したことをご存じでしょうか？

これは、昨年度の秋季年末賃金確定闘争の交渉の中で、「高圧的で、ものを言わせない管理職に困っている」、「是正指導以降、学校で自由に意見を言い合える雰囲気は全くなくなってしまっている」という私たちの訴えに心を痛めた広島県教育委員会が、『『心理的安全性』に特化した教育長メッセージを出して、働きやすい職場づくりに努めてまいりたい』という答弁が形になったものです。つまり、私たちの交渉の成果なのです。

メッセージの中では「何気ない会話も含めた日常的なコミュニケーション」「困ったときはお互い様として、遠慮なく相談し、支え合う心持ちや姿勢」「積極的なチャレンジやアイデアを共有・後押しする共感的な前向きさ」「一人一人自分らしくあることを大切に思う相互のレスパクト」が大切だとし、「特に、管理職の皆さんには、こうしたことが自然にできるような工夫とともに、誰もが萎縮することなく意見を述べたり、多様な意見をお互いに受け止めたり、注意すべき点を率直に指摘し合ったりすることができるような配慮や働きかけを、職員の皆さんとコミュニケーションをとりながら取り組んでいただきますようお願いします」と述べています。

各校で、このメッセージはどのように職員へ周知されたでしょうか？残念ながら、私の勤める学校では、職員朝会で教頭がサラッと触れただけでした。本来なら、校長自ら管理職のこれまでのやり方の反省を踏まえて話をしてほしい。私は、管理職が「自分の考え押し付けでなく現場の意見を尊重する」ことをしなければ、現場のもの言えぬ雰囲気は変わらないと思っています。

私たち自身も諦めたらそこで終わりです。「何を言っても結局は無駄」と心折れそうになることもありますが、どうか、この教育長のメッセージを活かして、誰もが安心してものが言える、みんなが働きやすい職場づくり、子どもたちも生き生きとできる学校をめざして、共にごがんばっていきましょう！

